



NPO 法人流山市国際交流協会

NIFANEWS

発行: NPO 法人 流山市国際交流協会
〒270-0111 流山市江戸川台東 1-4 3F
国際理解サポートセンター内
☎: 04-7128-6007
Email: nifa-support@bz04.plala.or.jp
http://nifa-home.sakura.ne.jp/

NIFA の舞台は広がりつつあります ～ 街のコンシェルジュに「ONE NIFA」で ～

NIFA は現在 5 つの事業部と国際サロンを持ち、それぞれ国際交流に資する活動を行っています。けれども活動の中にはこれら事業部の枠を超えて取り組む活動もあります。その一つが流山市から委託された事業です。今回はこの委託事業に焦点を当てます。



◇国際化施策事業の受託◇◆◆

NIFA は、今年度も流山市からこの事業を受託しました。契約は 1 年ごとですが今迄数年にわたり受託を続けています。

国際化施策って何？流山市には現在 2,300 人を超える外国人が居住しており、その人数も市の総人口に占める割合も上昇しつつあります。これら外国の方が日々生活する上で困りごとや分からないことがあった時に気軽に相談に乗れる場所が必要、ということで NIFA がその相談窓口業務を委託されているのです。

相談の受付場所は、流山市の江戸川台出張所の建物 3 階にあり、「国際理解サポートセンター」(SC) という市の一機関・組織の看板を掲げています。毎週月水金に開設しています。

手続きや申請に出張所を訪れた外国の方と職員の方とのコミュニケーション上のサポートを、必要書類作成にあたり外国語に翻訳、保育・保健施設に見えた外国の方との通訳、日本語を学びたいという依頼、市の窓口では扱えない問題の相談等々、今までにも多岐にわたる相談を受けてきました。また市内在住の日本の方からも、翻訳、通訳の依頼や海外での預金、保険に関わる手続きの相談を受け、お役立てをした事例もあります。

これから流山は国籍を問わず人口が増えると予測されています。受ける相談件数も増え、内容ももっと種類が多くなるかもしれません。NIFA の総合力が求められ、期待されていることを予感します。私達の活動で「日本に住むなら流山」なんて評判が生まれたら嬉しいですね。



◇小中学校日本語指導業務の委託◇◆◆

市内の小中学校に在籍する外国人子弟に日本語を教える事業。(通称「学校派遣」)
NIFA の日本語講座事業部の資格を持った講師が学校からの要請に応じています。

この事業は 2002 年西初石小学校から始まり、2007 年からは児童数、学校数共飛躍的に増加しています。2015 年度は 17 人の生徒に 286 回、2016 年度は 22 人の生徒に 365 回、2017 年度は 19 人の生徒に 347 回の授業を行っています。

日本語の授業の時には生徒は教室を離れ、別室で講師と原則 1 対 1 で行います。授業は 1 回 2 時間、20 回を目安に、日々の生活に必要な読み、会話を一通り教えます。生徒の出身国・地域は様々、日本での滞在期間も違えば、日本語の習熟度も違います。その中で子供たちが楽しい学校生活を送れることを願いながら、自分の意志が表現できて友達や先生とのコミュニケーションが取れるよう指導していきます。講師の方たちは、時には精神的な支えになるよう、また日本語の授業が心の安らぐ時間になるよう、子供に寄り添い、忍耐強く接するよう努力されています。生徒にとっては単なる日本語を教えてくれる人、という以上の存在なのです。



1. オランダへの関心を高める事業

2020年の東京オリンピック、パラリンピックを前に、千葉県がオランダの事前合宿地に指定され、流山市はバレーボール、ハンドボール、卓球、車いすバスケットボールの合宿候補地となっていることから、この機に市民の方にオランダへの関心を高めてもらおうとする事業を受託しました。

【オランダ交流事業】

市内の公立小学校全16校を巡回しながら6年生を対象に、オランダの地理、文化、歴史、日本との関係などを紹介する事業です。(通称「オランダ教室」)

この事業は昨年からはじめ、今年度も引き続き受託しました。

オランダと日本は古くから交易を通してその文化に触れてきました。「ランドセル」(ransel)や「おてんば」(ontembaar)などの他多くの言葉が日本語になっています。また流山運河の掘削技術を指導したモデル氏を通して身近な国となっています。

「オランダ教室」の講師は市内在住のオランダの方、ニフユス・ヨセウスさん(通称ヨスさん)です。昨年の「オランダ教室」ではヨスさんの話にオランダと日本の共通点や違いを感じた多くの子供たちは目を輝かせ、歓声を上げていました。今年も約1千5百名の生徒からどのような反応を受けるのか楽しみです。そしてこの機会に多くの子供たちがオランダだけではなく、世界に目を向けるようになることを願って開講の準備を進めています。



他に私たちは、「オランダ料理教室事業、おもてなし・オランダ語講座事業」を企画中です。

食文化を通じてオランダへの関心、理解を深める事業です。私達にとりオランダの料理はあまり馴染みがないようですが、酪農や漁業も盛んでおいしい食材がたくさんありそう。今秋2回の教室を開催し、市内のイタリアンレストランでシェフをされているオランダの方にお国の家庭料理を紹介していただければ、洗練された逸品でオランダの食文化の一端を楽しめるのではないかと思います。味覚の秋に相応しい企画です。

もう一つは、オランダの選手、スタッフ、観光客が流山を訪れることを想定し、街で出会ったり、声をかけられた時に、歓迎の意志や思いを伝えるマナー、言葉などを学ぶ事業です。「オランダ教室」を通じ子供の中からオランダへの関心が高まり、それに呼応して大人の中にも関心が高まるよう、両面からの事業を通じ、2020年を迎えることができればいいですね。オランダチームが是非勝ち進み、流山で合宿が開催されるよう願いつつ、秋に開催できるよう企画中です。

2. 外国人妊婦の方への検診時サポート事業

市内在住の外国人妊婦の方が健康相談、指導を受ける時にご本人と、保健師とのコミュニケーション上のサポートをする仕事です。今までは日本語での会話が難しく、妊婦の方への支援が途切れてしまう事例もあったようですが、このたびの受託によりスムーズに支援が継続されることが期待されます。

前年は外国人妊婦の方42名のうち面接ができた方が20名だったそうです(保健センター調べ)。NIFAの通訳サポートで面接者が増え、無事出産を迎えられれば嬉しいこと、NIFAも「母になるなら流山」を支えます。

英語、中国語、韓国語でのサポートから始めます。





インタビュー NIFAの人

中橋 義尚さん(事務局長兼総務部長)

Q. NIFAに入会したのはいつ頃？どの事業部ですか？

A. 2014年秋にリチャード・ラムさんの英会話講座に入りました。

Q. 総務部長、事務局長はいつからですか？

A. 入会後まもなく、前任の総務部長だった関さんから後任の打診があり、引き受けることにしました。それが2015年の改選の時です。その1年後に谷田さんが事務局長を退任された時、私が兼任で引継ぎました。そして今に至っています。

Q. どのような仕事をしているのですか？

A. 前任者から引き継いだ経緯は別にして、私の頭の中では、組織内部の仕事、例えばルール作りや手続き、その運用などが総務の仕事、組織経営、各部門間の調整、対外折衝などが事務局の仕事と考えています。

Q. 例えば市からの事業を受託するにあたって仔細な打ち合わせから、手続き、契約締結に至るまでは事務局の仕事？

A. そう。ただ契約が締結できれば終わりという話ではなく、契約完了まで常にNIFAのマンパワーを考えながらフォローアップを行っています。

Q. 総務の仕事って具体的にはどういうものですか？

A. 総会や、会議の準備とフォロー、外部情報を組織内部に伝達したり、とか。

Q. 今一人でやっているからいいけれど、以前のように切り分けるとなると難しいですね。

A. 敢えて切り分けなくてもいいと思っています。兼任でも実務スタッフがいれば効率は上がります。

Q. NIFAのHP管理、情報関連などITも一手に引き受けていますね？

A. そう、でも私の専門ではありません。在職中は電子機器の製品設計、企画をしていたのでその時身に着けたものです。

Q. 今の仕事で心がけていること、大切にしていることは何ですか？

A. 情報の共有とタイミングを失しないということです。

情報には賞味期限があります。NIFAは組織運営のために顔を合わせることは少なく、メールや電話での連絡は欠かせません。特に外部からの情報には注意しています。

Q. 年中見張っているのですか？

A. そうです。必要な回答が時宜を失すると信頼を失うことになるので気をつけています。

A. 英文のメールも来るし、苦勞して英語で返信しますが、自分の勉強になるし相手が理解してくれたことがわかる返信があると安心し、嬉しいと思います。

Q. 今の仕事をしながら見えるNIFAの課題は？

A. 国際交流という名がついているのもっと外国人との交流、関わりが多くてもよいのかなと思っています。外国人の会員数、イベントへの参加についても近隣の国際交流協会とNIFAとの違いを感じます。全体として待ち、受身の姿勢になることが多く、こちらからもっと出向いていけばNIFAの活動が広がるのに、と思いつつ私もサポートできていないのが残念です。

Q. NIFAの仕事でやり甲斐を感じたことは？

A. 昨年初めて受託した「オランダ教室」が成功し、それがきっかけとなって更に受託事業の可能性に幅ができたことです。一つの仕事につながりができ、更に大きな仕事になったのはやり甲斐のあることです。

Q. 在職中の経験が活かしていることはありますか？

A. 設計思考でしょうか。物事を設計図のように視覚化し、試作、失敗しながら最適解を得る、というやり方は役に立ちます。家内からはうるさがられますが。(笑)

Q. 自分の時間とNIFAの仕事との切り分けは？

A. 短時間で集中するよう心がけています。

Q. 日々大切にしていることは何でしょう？

A. リズムです。人間の活動や健康のためには時間や習慣などのリズム維持が大事だと思っています。特に予定がなくてもリズムだけは維持するように心がけています。また、音楽の三要素にメロディ、ハーモニー、リズムがありますが、人の営みも同じだと思います。共同で何かをやる時にはハーモニーも、同じメロディを奏でることも、リズムを刻むこともとても大事だと思っています。

♥忙しい中

色々お話し

ありがとうございました

ました

(2018年4月13日

インタビュー西山勝)



人物

金 淑花 さん

多文化共生への取り組み

去る3月10日(土)付けの毎日新聞千葉版に「日本人との橋渡しを担う」という見出しで外国語支援事業部の金淑花さんが紹介されました。記事をご覧になった方も多いかと思われます。翌日の3月11日は東日本大震災から7年目、災害が発生した時に被災された外国人にどのように支援をしたらよいのか、という点から金さんの活動が紹介されました。

金さんは現在、「多文化共生マネジャー」の資格を取得され、色々な活動を推進されていますが、この大「震災を初めて自分の皮膚で感じ」られたことが原点になっています。

災害時には日本人も外国人も共に避難生活を余儀なくされますが、習慣や考え方の違いもあり、その橋渡しが必要、金さんは、日本に長く住む外国人としてその役割を担おうとされたのが動機です。

『多文化共生』とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」とされています。「多文化共生マネジャー」とは「多文化共生社会」を推進するために必要な専門的な研修を履修された方に対し、一般財団法人自治体

国際化協会 (CLAIR) が認定したものです。今年の1月現在、全国でも477名のマネジャーが認定されているだけです。

私達NIFAも「多文化共生」の視点から色々見直すと活動の幅が広がりそうです。



日本人との橋渡し担う

ボランティア 流山・金淑花さん

震災7年 ちび

外国人被災者へ分かりやすく対応



金淑花さん(左)とボランティア仲間たち(右)が、流山市の外国人被災者支援センターで、被災者への対応について話し合っている様子。

取材：毎日新聞記者 山本 浩一

掲載：毎日新聞 2017年3月10日付 千葉版

写真：毎日新聞記者 山本 浩一

編集：毎日新聞記者 山本 浩一

発行：毎日新聞記者 山本 浩一

印刷：毎日新聞印刷局

発行所：毎日新聞社

〒100-8702 東京都千代田区有楽町1-3-1

TEL:03-5561-0101 FAX:03-5561-0102

URL:www.mainichi.co.jp

©2017 Mainichi Shimbun, Inc.

本紙の著作権等一切権利を保有する。

本紙の複製・転載を禁ずる。

本紙の発行部数は、毎朝発行部数1,000部。

募集

NIFAの活動に参加してください

あなたの得意技を教えてください

- ◇ NIFAは今後、日々の市民生活や社会の動きに密着した活動が期待されるようです。この期待に応じるにはNIFAが一つになって取り組むことが求められます。
- ◇ そこで皆様からお得意技・スキルを登録いただき、必要な時にご協力いただける仕組みを考えました。
- ◇ 組織を機動的に運営するための事務上の技能、多くの地域の外国人とのコミュニケーションに必要な技能、日本文化、外国文化を伝える技能、音楽、スポーツの技能など多岐にわたる皆様のお力をNIFAの力としてデータベース化します。
- ◇ この「NIFA NEWS」に同封しました「技能・スキル等登録シート」の項目の中に、「これなら協力できる、できそう」というスキル・技能があればお知らせいただきたくお願いします。

飲食店モニター募集

市内で外国人が営んでいる飲食店をお知らせ下さい。そしてそのお店の様子を記事にして下さい。

次回、9月1日号から3回にわたり掲載します。

お店で飲食される費用の一部を負担します。(2人まで)味が評判、雰囲気がいい、交流の場になっているなどの特徴を教えてください。

ご連絡、お問い合わせ先：
西山 04-7158-5724



英語でコミュニケーション力を磨きませんか

「英会話サロン(中級)」が開店しました

4月から毎週木曜日の午後2時から90分間、市民活動推進センター(生涯学習センター3F)の一室は英語が飛び交います。参加されている皆様は、事前に呈示された身近な話題をプレゼンテーションし、そのあと自由に会話を進めます。

ラジオの英会話番組や映画などでネイティブの英語を聴く機会が多いのですが、自ら自由に英語を話す機会は限られています。学んだ単語やフレーズを使って思いっきり英語を話してみませんか。入室から退室まで100%英語のみ。コーディネーター役の近広秀一郎さんが発言時間の行司役になり、参加される方が等しく発言できるよう調整します。

興味のある方は是非部屋を覗いてみてください。

問合せ先：サポートセンター (04-7128-6007)
又は西山 (04-7158-5724)



イベントファイル

キッズ英語教室 「中央公民館まつり」に参加

2018年3月3日、春らしい暖かな陽気と目の覚めるような青空の中、「中央公民館まつり」が開催されました。NIFAはジャメイン水澤さんを講師に「キッズ英語教室」を開催。(午前、午後各1回)

午前は、開始と同時に子供連れのご家族が押し寄せ、あっという間に部屋は親子でいっぱいになる大盛況ぶり。映像や音楽、絵本などの教材を使い、アルファベットの練習や間違い探しに興じ、みんなで輪を作り歌や踊りを楽しむなど、工夫された内容とジャメインさんの明るく元気なリードで、リズムカルでナチュラルスピードの英語も、子供たちに自然に受け入れられたようです。みんなのニコニコ顔に惹かれました。(伊藤恵佑記)



オランダ教室

2年後の東京オリンピック、パラリンピック開催に向け、流山は卓球、ハンドボールなどの種目でオランダの合宿候補地であることから、迎え入れに向けた気運が芽生えつつあるようです。

3月20日、市立常盤松中学校では「オランダ教室」が開催され、ニフユス・ヨスさんが講師として、1,2年生とその父兄の方を前にオランダを紹介しました。

昨年は市内の全小学校の6年生を対象に、同様の教室を開催しましたが中学校は初めて。国の広さ、料理、国旗の色、ネーデルラントの意味、スポーツチームのユニフォームカラーがオレンジ色の理由、オランダ生まれの人気キャラクターは何?等々、全て当日配られた質問票に回答を書き込み、答え合わせでヨスさんが正解を説明するという進め方。

中学生らしい規律と整然とした空気の中で、予想外な回答に起こる静かなどよめきは印象的。「おはよう」「こんにちは」など簡単な言葉の練習の中で、オランダ語が英語に似ていると気づく生徒もいることでしょう。

とても短い時間でしたが、オランダを身近に感じ、それが世界に目を向けるきっかけになることを願いつつ、生徒や教職員の皆様の暖かな拍手に送られて体育館を後にしました。



ラトビアの合唱団「ジントルス」 を迎えて交歓会

3月28日流山市生涯学習センターで、柏、我孫子、流山の合唱団体と「ジントルス」の交歓会を行いました。NIFAはワールドハーモニーのメンバーが出席しました。

また、NIFAによるホームステイの受け入れもありました。



ジントルスの演奏を聴く

- 2018年3月29日(木)
- けやきホール(我孫子 ふれあいプラザ)

来日3度目のラトビアの合唱団「ジントルス」が我孫子、柏、八千代の合唱団と交歓演奏会を開催しました。

演奏されたのはいずれもラトビアの民謡、作曲家の作品。小品ながら親しみを感じる旋律が澄んだハーモニーで演奏され、聴き手はその共鳴から生まれる溶け合った音の空間に包まれる心地がしました。

「ジントルス」とは「琥珀」のこたごそう、約30名のメンバー(女声)が紡ぎ出す細やかな情感、弱音も細くならず、強音も割れず、バランスを保った演奏を楽しみました。(西山記)

新緑をそよぐ薫風に心地よい汗

東武健康ハイキングに参加

5月13日、NIFA会員の皆さんと「東武健康ハイキング」に参加してきました。

コース全行程約8キロと、大人でもへトへトになってしまうような長丁場でしたが、暑くも寒くもない程良い天気と、江戸街情緒溢れる素敵なお店の数々のおかげで、皆さん最後まで笑顔を絶やすことなく歩ききることができました。また、ゴール地点では地元名産物の即売会が開催され、疲れた体に染み入る、おいしい食べ物に舌鼓を打っていました。

筆者は中国人のご家族と一緒にさせていただき、道中で文化の違いでの苦労やお子様の教育についてなどを話したのですが、本当に勉強になることが多々あり、これこそが国際交流の醍醐味だなあとしみじみ感じました。(伊藤恵佑記)



お詫びと訂正

4月23日発行の「会報」第25号で、4ページの「平成30年度の役員」中に誤りがありました。

【理事(流山商工会議所)海老原新蔵】とありますが、正しくは【池森政治】です。お詫びして訂正いたします。



♪ 暮らしやすいコミュニティの一助に ♪

外国語支援事業部

市内在住の外国人向けに、日々の暮らしや災害時の困りごとに対処する方法を冊子にしたりHPに掲載したりしています。ここにほんの一部ですが紹介します。今回は韓国語版です。

★ 나가레야마시에 살고 있는 외국인을 위한 ★

(防災ガイド)

★ 우리의 안전은 우리 스스로 보살펴야 한다.★

(私たちの安全は私たち自身で守らなければなりません)

지진의 비상사태에서 할 일 (地震発生による緊急時にしなければならないこと)

1. 우선 자신의 안전을 확보한다. (先ず自分自身の安全を確保しよう)

책상이나 테이블 밑으로 몸을 피한다. (机やテーブルの下に隠れよう)

2. 화재 방지를 위해 가스를 잠그고 스토브를 끈다

(火災の発生を防ぐために、ガス栓を締め、石油ストーブを切ろう)

7. 피난시에는 자동차 이용을 피하고, 부피가 큰 짐은 휴대하지 않도록 한다

(避難時には、車の利用は避けて、大きい荷物は持ち出さないようにしましょう)



会員の声

海外での共生には、“4つの《あ》”が大切 ~ 私の海外体験から その1 ~

近広秀一郎さん (外国語講座事業部・英会話サロン講師)

私は会社員時代に中近東、ヨーロッパ、米国に計12年間滞在した。だれでも同じだろうが、帰国して日本の生活に戻ると海外との違いが気になり無意識に比較してしまうことがある。海外に出て分かったことは、日本以外では欧米的、中近東的な発想をして行動する人が大多数であることだ。だから日本の居心地の良い社会になれると、日本との違いに驚くことがある。自己責任の考え方、個人主義と団体主義、意志伝達方法など異なると思う。違いの背景は自然環境、宗教、歴史の違いに起因しているかもしれないが、それ以上に日本人が単一民族(他民族との混血のない同質、均質のDNA)であるからと思う。逆にいうと世界には異民族が混在している国が多い。普段は言葉も習慣も違う人々が同じ国に共存している。日本人は単一の農耕民族の特徴をいまでも色濃く残していると感じる。温暖な気候で、自然の食物が豊富。狭い水田で共同で働く田植的発想だ。協調、団体行動、調和志向、チームワーク、思いやり、付度、気配りなどは得意だが、田植え作業のように横並び意識が強く、他人の例、過去の例を気にして独創性に欠ける。

一方、欧米人、中近東人の原点は狩猟民族だと思う。気候が厳しい(寒い、暑い)、自然の食物は不足がちなので牛、猪、鳥など動物や魚など自分で射止める。いわゆる肉食人種だ。個人の能力が獲物の量を左右するので個人主義、能力主義になる。だから自己主張が強いし、協調性に欠けるし付度はしないし、組織内でもヨコに連携しない(上下はするが)。

一番強烈な印象はサウジアラビアとパキスタンだ。両方ともイスラム教国で、日常生活は宗教に支配され、ビジネスでは西欧の影響が強い。中近東に長年住んでいた日本人から、中近東では“4つのあ”がカギだと言われた。半ばジョークのようだが、欧米でも十分通用すると思った。『あせらず、あきらめず、あてにせず、あつかましく』の4つだ。結局、日本人は海外に出ると、狩猟民族と競争、共存しなくてはならないのだと思う。



編集後記:流山にはNIFAあり

そんな声の広がり期待しつつ。

部長:小谷良美、スタッフ:西山

勝、李明勲、谷口宏美、伊藤恵佑

韓国語の日本語訳校閲:小谷

日果里さん

★ 30周年記念事業企画にご参加を!

会長 小宮 陽一

1991年設立の当協会は、2020年に創立30周年目を迎えます。

またNPOとしての発足からは10年目となります。

この節目にあたっての記念事業について、そろそろ検討を始める時期となりました。

事業の企画を行う組織を立ち上げますので、関心ある会員各位の参加を呼びかけます。

1. 名称: NIFA30周年記念事業企画会議

2. 検討事項: 30周年にふさわしい記念事業の内容

3. 会議の構成: 本部役員を含め10名程度

4. 会議の開催時期: 2018年7月から2019年1月まで月1回程度

会議への参加を希望される方は、サポートセンターもしくは本部役員までご連絡ください。